

村・教育行政報告

第一回定例会

平成三十年第一回議会定例会が三月七日から十六日の日程で開催され、議会初日、村長・教育長が村・教育行政報告を行いました。

行政報告

村長 石塚 隆

▽要望・要請活動

●一月二十三日より上京をし、村の懸案事項について、関係機関や道内選出国会議員に対して、要請を行いました。

▽防災関係

●昨年の十二月二十五日、村内全域に暴風雪警報が発令され、防災無線により注意喚起を促すとともに、自治センターを

自主避難場所として開設し、緊急時の対応として、自治センターに毛布やポータブルストーブ、発電機等を搬入いたしました。被害状況としては、停電約六百戸、住宅や納屋、ハウス等被害が八十件、さらには、防雪策の倒壊による通行止めなどがありました。幸い、けが人等はいませんでした。今後は、冬場の停電等も想定した災害対策を検討してまいります。

▽企画振興関係

●昭和五十三年から毎年実施しています自治懇談会は、今年で四十回目の開催となりました。

自治懇談会の趣旨は、村民の方々の声を直々にお聞きし、村政に反映する機会として開催し、今年一月十五日の第一自治区を皮切りに一月二十六日の中央自治区まで、六自治区を対象に自治区の会館や自治センターで実施しました。参加

者は、合計約二百四十五名の方々に参加をいただきました。

●今年度の「しのつ湖」のわかさぎ釣りの解禁は、昨年より十日遅く、たつぷ釣り場、北釣り場が一月十三日、南釣り場が一月二十七日となりました。

今シーズンは天候にも恵まれ、また、テレビコマーシャル等の宣伝効果もあり、前年より遅く解禁したにもかかわらず、二月末までに、約一万八千人が来場いたしました。特に週末は、一千人を超える日もあるほどの盛況ぶりでした。

▽商工観光関係

●第八回となる「しのつ湖キャンドルナイト」を二月十一日の午後五時に点灯し、この公園で開催しました。

このイベントの主催は、村観光協会とJA、商工会、建設関係の方々にもご協力をいただき、展望台入口まで道をつけて、その両側にスノーキャンドルを作成しました。

また、小学校の児童にも協力をいただき、たつぷの湯の正面入口の前や産直市場前にアイスキャンドルを作成しました。

当初二日間の日程でしたが、二日目は強風等により中止になりました。初

日についても風が強く、早めに消灯してしまいました。多くの家族連れで賑わいました。

●第七回「しんしのつ婚活パーティー」を二月十一日から十二日の一泊二日の日程により、たつぷの湯で開催しました。主催は、村観光協会で、今回は男性六人、女性六人と例年より少ない参加の中での開催となりましたが、ゲームやわかさぎ釣りなどで交流を深めました。

今年も昨年同様、大きな「かまくら」を作り、その「かまくら」の中で男性から告白した結果、三組のカップルが誕生しました。これまで、六回の開催で四十五組がカップルとなり、五組がご結婚されたと報告がありました。

●平成二十七年より実施しております出産祝金贈呈事業について、今年度は、二月末までに第一・二子の五万円が十三件、第三子以降の十万円が一件、合計七十五万円の出産祝金を贈呈いたしました。

●今年一月二日に交通事故死ゼロ五百日を達成し、交通安全推進委員会より感謝状の贈呈がありました。

▽交通安全関係

●今年一月二日に交通事故死ゼロ五百日を達成し、交通安全推進委員会より感謝状の贈呈がありました。

今後、新たな目標であります交通事故死ゼロ一千日（達成日、平成三十一年五月十七日）に向けて交通安全運動に取り組んでまいります。

●昨年度より実施しています、高齢者運転免許証自主返納サポート事業は、二月末までの期間に十九名（累計四十四名）の方が免許証の返納手続きをいたしました。申請された方々には、六万円相当分の公共交通利用券の交付をしております。

●昨年度より本格実施となりました高齢者乗合タクシー事業については、二月末までの期間で、累計一千六百七十八名、一日平均約七・八名の方にご利用頂きました。

●例年実施の除雪サービスは、昨年十一月から希望のあった三十世帯を対象に実施しています。

●インフルエンザワクチン接種者に対する負担軽減措置として生活保護世帯の方及び六十五歳以上の方を対象に、一月末現在で六百四十二名の方に助成を行っております。

●平成三十年産米の生産についてであります。国による生産数量目標の配分が平成三十年度より廃止され、北海道及び各地域協議会ごとに「生産の目

標」を設定し、生産者の方々が目標を達成できるように努めます。

●平成三十年産米の生産についてであります。国による生産数量目標の配分が平成三十年度より廃止され、北海道及び各地域協議会ごとに「生産の目標」を設定し、生産者の方々が目標を達成できるように努めます。

教育行政報告

教育長 荒谷順一郎

安」を設定することとなりました。

北海道農業再生協議会では、北海道全体で主食用米九万三千二百二十二㌔の作付面積と五十万八千九百九十四㌔の収量を生産の目安といたしました。

本村においても、村農業再生協議会が主食用米二千三百一十一・五㌔の作付面積（前年度対比で一・六八割増で設定）と、一万二千八百七十五㌔の収量を生産の目安として、その作付面積を百割の計画で各農事組合へ配分し、転作面積は、二千五百一十・五六㌔、転作率五十二・〇六割となっているところであります。

▽除雪関係

●今シーズンの降雪は、十一月中旬からまとまった降雪があり、十一月としては過去最高となる百六十四㌔の降雪となりました。その後は十二月、一月ともに平年並みの降雪量で推移し、二月末では七百七十八㌔の降雪量となっております。

今冬の最大積雪深は、二月二十二日の百五十一㌔ですが、二月末日現在の積雪深は百三十九㌔となり、平年より四十五㌔ほど多い状況であります。

また、今年度は老朽化した除雪ドザーを更新し、除雪業務の機動力の強化を図りました。

除雪委託期間も残り一ヶ月をきりましたが、今後も安全作業に努めながら、住民の生活道路の確保に努めてまいります。

▽学校関係

●今冬は、大雪や吹雪の影響も少なく、登下校においては、雪の関係では大きな問題も無く登校することができました。しかし、インフルエンザ流行により、中学校で学校閉鎖、小学校でも学年閉鎖が3学年にわたり実施されました。

現在は、インフルエンザの感染も治まっておりませんが、風邪により数人の子供たちが欠席しているものの、冬期の学校の運営としては、後半は平穩に進める事ができました。

▽小学校関係

●十二月十九日、第一回教育支援委員会を開催し、四月に入学予定の新生となる児童二十名を対象に就学審査を行い、一月二十三日付けで保護者に対し就学通知を送付いたしました。

また、二月八日には、第二回目となる幼児学級を開催し、入学当初の日課や授業の内容等について指導いたしました。

▽中学校関係

●三年生の進路状況については、卒業生二十八名全員が進学を希望しており、二月には公立高校の推薦入試と私立高校入試、三月六日・七日には公立高校一般入試及び面接がそれぞれ実施されました。

▽高等養護学校関係

●三月三日、平成二十九年卒業証書

授与式が開催され、今年度は六十人の生徒が卒業されました。

▽社会教育関係

●一月七日、二十四名の新成人が参加するなか、平成三十年新篠津村成人式が、厳粛な中にも和やかな雰囲気で行われました。

●一月二十四日、B&G全国サミットが東京で開催され、村長とともに参加しました。サミットには、全国のB&G海洋センター所在自治体の首長や教育長、関係者が参加しました。日本財団 笹川陽平会長の基調講演や全国各地の海洋センターの取組みについての事例発表などが行われました。

●一月二十八日、冬の野外活動として恒例となった「ちびリンピック二〇一八」が、青年団と子ども会の共催で開催されました。

当日は好天にも恵まれ、幼児から大人まで多数の参加のなかで、雪合戦や雪中ゲームなどで盛り上がり、また昨年に引き続き、陸上自衛隊真駒内駐屯地の協力により雪上車の試乗体験が行われ、子どもたちだけでなく大人も雪上車を楽しんでおりました。

●子育て中の親や子育て、家庭教育に関心のある方を対象に、家庭教育講座を三回実施いたしました。

第一回目は十二月十三日に実施し、「おもちゃは子どもと大人をつなぐコ

ミュニケーションツール」と題し、ヨーロッパ玩具の店「ハンスオントーイ キンダーリープ」の店長に講師を願い、遊びを大人の価値観や流行だけで限定するのではなく、子ども同士が自ら楽しく遊ぶ中で、その時の成長期に合わせた物事を見通すことやルールを学ぶことの大切さについて学びました。

第二回目は、二月八日に実施し、「毎日食べるものだからこそ興味をもってみよう」と題し、有機やさい「アンの店」の代表に講師を願い、味噌・醤油等の調味糧等の状況について紹介していただきました。

第三回目は、二月二十一日に村PTA連合会との共催で実施し、「青少年をとりまくネットトラブルについて」と題し、江別警察署生活安全課の方を講師として招き、なぜ、子どもがネットトラブルにまきこまれるか、実際に起きている事件を事例にわかりやすくお話しいただきました。

●二月十八日、芸術鑑賞事業として「人形劇観劇会」を開催しました。岩見沢市を拠点に活動する人形劇団「こぶしっこ」がボードビルやエプロンシアター、人形劇などの公演をしました。公演終了後は、来場した子どもたちと劇団員が交流し、人形劇の人形を触ったり、一緒に写真を撮影したり、楽しい時間を過ごしておりました。